令和7年度

穴吹小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇PBSの手法を用いた算数科の授業の実践

〇自主性・協働性の育成を目的とした「話合い活動」の実践

校長

曽我部 修司

学力向上推進員

林 礼子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業、教員からの報告や調査など様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１)知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇授業には真面目に取り組み、指示されたことは、勤勉に取り組もうとする。 〇話型があれば、ある程度話すことができる。 ●授業中に友達の話を深く聞くことができていない。 ●語彙数が少なく、話すことの苦手な児童が多い。 ●算数科では、特に定着具合の個人差が大きい。	・相手の話を深く聴き、自分の伝えたいことを話すことできる。 ・対話的な活動を通して、基礎的・基本的な知識技能を確実に習得し、他の場面で活用できる。	・児童どうしの対話の必要性を高めるために、教師の発言を工夫する。 ・話す・聴くスキルを身につけるため、学年に応じた話型指導やトークトレーニングを実施する。 ・ドリル時間の充実を一層図り、一人一台のタブレットも活用しながら漢字・計算・語彙力の向上に努める。	・言語の知識・理解を扱う小単元を丁寧に繰り返し扱い、定着を図る。	・教師の発言を工夫することで、教科や単元によっては、児童同士の話し合いが活性化してきた。 ・トークトレーニングを実施することで、話しやすい学級の雰囲気をつくることができた。 ・言語の知識・理解を扱う小単元を丁寧に扱ったり、自分の進度に合わせてタブレットドリルで学習を進めたりすることができたため、十分とはいえないが、一定の学力の定着が見られた。	・学校全体で話型やトークトレーニングの形などを共有し取り組む。 ・ドリル時間の活用を工夫し、基礎基本の徹底を図る。 ・手書きによる「書く」時間を発達段階に応じて意図的に設け、基礎基本の定着を図る。

（２)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇学校生活の中で、創意工夫しながら生活を豊かにすることができる。 ●既習事項を活用して論理的に思考し、課題を解決していこうとすることに課題がある。 ●課題に応じて、必要な情報を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の情報を結び付けながら読み取ったりすることに課題がある。	・学校生活の様々な場面で、相手と自分の考えを比較し、理由や根拠を示しながら話し合うことで、よりよい考えを生み出すことができる。 ・目的に応じて読んだり、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを書いたり伝えたりできる。	・ペアやグループワークの話合う形を工夫する。 ・各教科において、理由や根拠を示す、意見をつなげる、問い返すことができるような話合い活動の場面を頻繁に設定する。 ・算数科では数学的活動を充実させた学習展開の工夫を行う。 ・研究授業や授業参観などを通して、互いの授業を見合い授業改善を図る。	・～見にきて！うちの授業～を通して、互いの授業改善を図っていく。	・授業内容に応じてペアやグループワークを使い分けながら学習を進めることにより、取り組む以前より全体で話し合うときの発言回数が増えてきた。 ・児童間で意見をつなげたり問い返したりする場面は、学級活動（Ｉ）以外では設定しにくかった。 ・算数科では、立体など可能な限り具体物を使い数学的活動を取り入れてきたが、思考を伴う発展的な内容を学習するのに困難があった。 ・全員が授業を公開することはできなかった。	・発達段階に応じた話し合い活動の充実。 （学級活動（Ｉ）の実践を継続する） ・具体物の操作や図などを用いた活動で理解を図り、活動を通して考えたことを表現したり、説明したりすることで思考力や表現力を高める。 ・自分の考えを整理しながら思考できるように、思考ツールを活用した授業づくり。 ・研究授業を計画的に行い、教師の授業力向上を図る。

（３)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇ＩＣＴの活用に意欲的な児童が多い。 〇家庭学習の習慣が身に付いている児童が多い。 ●課題等への自分事の意識が低い。 ●自分の考えに自信が持てず、正しいかどうか気にしすぎてしまい積極性に欠ける児童が多い。	・ＩＣＴを活用し、仲間と協力しながら、主体的に活動することができる。 ・お互いの考え方のちがいを認め合うことができる。 ・めあてをもって学習に取り組み、わかる喜びを味わいながら進んで学習できる。 ・幅広い分野の本に親しみ、進んで読書に親しむことができる。	・ＩＣＴを積極的に活用させ、グループで協力して、成果物を作成できるようにする。 ・学級活動（Ｉ）における取組を充実させる。 ・自主学習で調べ学習を定期的に行い、自分の目標に応じた学習が進められるようにする。 ・家庭読書の日を設け、読書の習慣化を図る。	・児童が興味を持って本を借りることができる、図書室や学級文庫などの環境作りをする。	・ＩＣＴを活用し、成果物の作成はできたが、グループでの作成はできなかった. ・メタモジを用いたグループワークを行い、多様な意見を共有することができた。（高） ・全学年において、学級活動（Ｉ）の実践ができ、児童の主体性が発揮される取り組みができた。 ・発達段階に応じて自主学習ノートを提出させ、習慣化を図るなど自主的な学習を進めている。 ・週に１回、家庭読書の日を設定したが、読書の習慣を身につけさせるには十分とはいえなかった。	・教員間でＩＣＴの実践について共有する。 ・主体的に取り組むことができるような動機づけを各教科、各内容で研究していく。 （問いの分かりやすさ、タブレットＰＣの活用、興味を引く教材の開発など） ・本を借りに行きたくなるような図書室の環境づくり。 ・図書室や学級文庫の充実を図る。 （読みたいと思う本を増やすなど）